

若田光一さんは こんな人

★子供の頃の 埼玉での思い出

魚釣りやザリガニ釣りをしたり、カブトムシやクワガタムシを捕まえたり、外に出て友達と遊ぶことが多かったですね。自然に親しめる素晴らしいふるさとだと思います。

★野球少年だった学生時代

リトルリーグではレフトを守ることが多かったですね。キャッチャーもやったことがあります。

大宮球場のような大きな球場でリトルリーグのチームがプレーできたことは胸を張れるような貴重な機会で、よく覚えています。高校でも野球をしていましたし、野球から本当にいろんなことを教えてもらったなという感じがしますね。

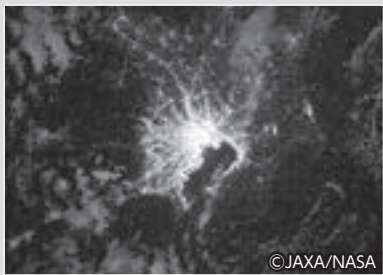
今でもソフトボールと野球は好きなので宇宙から帰ってきたらやりたいと思います。

★憧れの甲子園での始球式

2回目の宇宙の時に持って行った高校野球の公認球で、夏の甲子園で始球式をさせていただきました。高校の時は甲子園には行けなかったんですが、甲子園のマウンドに立たせてもらって気持ち良く投げることができました。高校の同級生からは「一緒にやった俺たちに恥をかかせるなよ」なんてメールをもらって。ノーバウンドでキャッチャーまで届いたので良かったです。とてもいい思い出ですね。

★若田さんから見た埼玉の魅力

都市と豊かな自然がうまく調和した、環境に優しい取り組みをたくさん行っている素晴らしい県だと思います。宇宙から見ても美しい日本列島の、その中にある自分のふるさと。



▲2013年11月17日、さっそく若田さんが宇宙から関東地方を撮影してくれました

埼玉の上空を通る時には写真を撮りたいなという気持ちになりますね。フライト中にぜひ美しい埼玉を宇宙から撮影して、機会があれば皆さんに発信できればいいなと思っています。

三大流星群 しぶんぎ座流星群 ★ 見てみませんか？

一年の最初に観察できる流星群「しぶんぎ座流星群」。8月の「ペルセウス座流星群」、12月の「ふたご座流星群」と並び三大流星群の一つに数えられています。

今はもう使われなくなった星座の名前「四分儀座」が「しぶんぎ座流星群」の名前の由来。流星群が最も活動するのは数時間程度で、その時刻が昼か夜かは年によって変わります。2014年は夜で月明かりの影響もあまり受けないので観察するには良い条件。この機会にぜひ冬の夜空を彩る流れ星を探してみたいかがでしょうか。

観察するには

※天候や場所によって観察できない場合があります。

- 時期** 今年のピークは1月4日午前0時から明け方までの予定。
- 場所** 広く空が見渡せ、街灯など人工の明かりが少ない場所がオススメ。
- 観察方法** 肉眼。望遠鏡などを使うと、観察範囲が狭くなり見えづらくなります。どの方向にも見えるので夜空全体を見渡しましょう。

注意点

外はとても寒く夜間はさらに冷え込みます。厚着をするなどしっかり寒さ対策をしましょう。また、夜遅い時間なので安全には十分注意してください。



転機は新聞で偶然見つけた宇宙飛行士募集の記事です。記事を見て、小さい頃の宇宙への憧れがよみがえりました。技術者の仕事は毎日充実してやりがいを感じていましたけれども、宇宙の仕事はより多くの世界の人たちに貢献できる仕事じゃないかと思っ

て応募しました。そして幸運なことにこの仕事に就きました。常に自分の得意な分野を生か

船長の先にある夢 ～日本から世界の人を宇宙へ～

宇宙飛行士の訓練や飛行を通して経験したことを日本の宇宙開発のために役立てたいなと思っています。将来は種子島から日本

彩の国だよりプレゼント

若田光一さんの著書「宇宙飛行（大人向け）」と「宇宙がきみを待っている」（子供向け）をそれぞれ1人にプレゼント！応募方法は11ページ「平成26年新春クイズ&プレゼント」をご覧ください。



▲ハッチオープン、ISSに入室する若田さん

両親の田舎である九州に家族で帰るときに飛行機に乗る機会があつて、飛行機に興味を持

夢を実現するために ～失敗を人生の糧に～

やはり大切なのは目標に向かって失敗してもくじけず努力して

いくことではないかなと思います。ね。目標を掲げることによって、ずと道筋が分かってきますし、それに向かつて努力すること、例えばそれが失敗につながったとしてもそこから学んだことが将来必ず役に立つ、人生の糧になると思

県民の皆さんへ

ISSで船長を担当するのはアジア人では初めてです。任務の重さを感じていますが、日本の技術力に対する高い信頼感を少しでも向上できるように頑張りたいと思います。

これまで県民の皆さんにもたくさん応援していただいて、とても心強く感じています。皆さんの応援を力に、今回の長期滞在も成功させてISSでの成果を最大限に出せるようにチームをまとめていきたいと思っています。

若田さんがいる 国際宇宙ステーション ISS International Space Station

「きぼう」日本実験棟

日本が初めて作った有人実験施設で、ISSで一番大きい実験棟です。2009年7月に完成し、現在筑波宇宙センターで24時間体制で運用しています。「きぼう」は主に次の五つから構成されています。

船内実験室

「きぼう」の中心となる実験スペース。地上とほぼ同じ空気、気圧が保たれており、宇宙飛行士が普段着で作業することが出来ます。2008年ISSに取り付けられて以降、微小重力環境を利用した実験に取り組んでいます。

衛星間通信システム

筑波宇宙センターと「きぼう」との間で双方向通信を行う、日本独自のシステム。「きぼう」の実験データや画像などを地上に送り、地上からのデータなどを受信します。

ロボットアーム

船外実験プラットフォームの上で、装置の交換などを人間の代わりに行う「腕」となる部分。船内実験室から操作します。「きぼう」は実験棟で唯一、独自にロボットアームを持っており、2012年からはこの機能を生かしたユニークな実験「超小型衛星を「きぼう」からロボットアームを使って放出」も行っています。

船内保管室

実験装置や消耗品などを保管。実験棟の中で専用の保管室があるのは「きぼう」だけです。

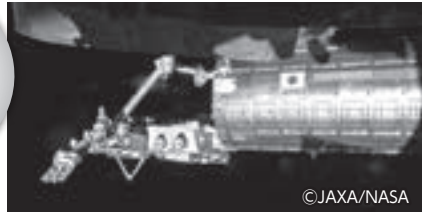
船外実験プラットフォーム

ISS外部にあり微小重力、高真空などの宇宙空間にさらされた環境を利用して天体観測、地球観測、理工学実験などを行うことができます。ロボットアームで実験装置を交換できたり、大型の装置を取り付けたり、ISSの中でもユニークな設備です。

若田さんが
さまざまな
任務を行う

▶「きぼう」ロボットアーム (JEMRMS)

▲ISSは約108.5m×72.8mとほぼサッカー場ほどの大きさ



★ ★ ISSは条件がそろえば日の出前と日没後の2時間ほどの間に地上から肉眼で見ることができます。
★ ★ 詳しくはJAXAホームページWEBをご覧ください。